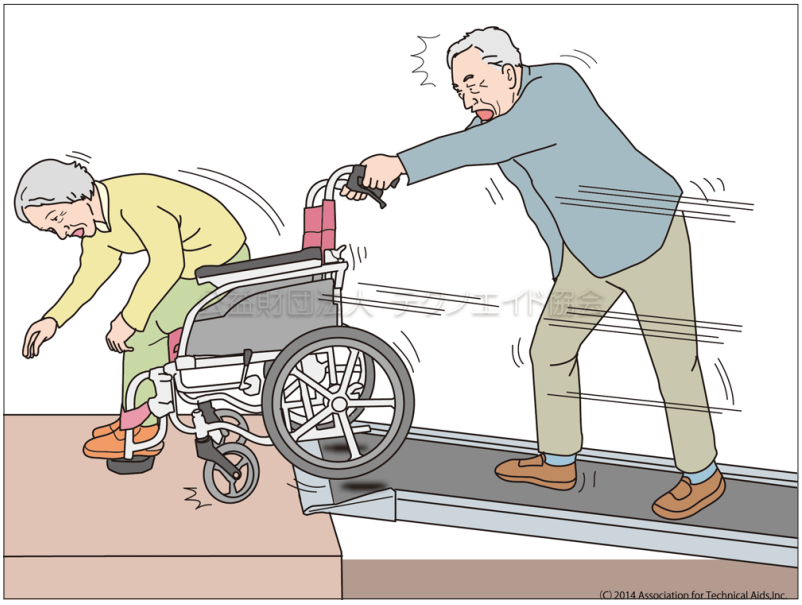
Case：305

勢いをつけてスロープを上った際、最上部で本人が車いすから落ちそうになる

場面の説明

勢いをつけてスロープを上ったが、最上部で急減速したことと、スロープ縁の段差で車いすが前傾したことで、本人が車いすから落ちそうになった。シートベルトは付けていなかった



利用シーン	移動
主な利用場所	玄関 段差・縁石
介護保険の種目	スロープ
分類コード(CCTA95)	183015(携帯用スロープ)
介護テクノロジー	―
二次元バーコード	

解説

勢いをつけてスロープを上ると、最上端部での減速と可搬型スロープの厚み分の段差によって、本人が前方に振り出される力が大きくかかります。適切な速度で登坂することや、段差部分も注意して越えることが大切です。介護者が精いっぱいの力で勢いをつけて上ることは、本来あるべきではありませんが、やむを得ず必要な場合は、このような危険があることを理解し、一時的にベルトを装着するなど万一に備えた対応も必要です。

参考要因

人：ゆっくりとした速度で介助するのに十分な体力がなかった
人：勢いをつけた方が楽に上り切れると思いスピードを出しすぎた
環境：段差との奥行きがない狭い場所で、緩やかなスロープを選択できなかった

Copyright 2000-2012 Association for Technical Aids, Inc. All rights reserved.